

開催日	平成 25 年 11月 22日(火)
参加機関・担当者(別紙)	
主な議題	あいさつ 1、事務局活動報告 2、専門部会報告 3、その他活動報告 4、勉強会 5、質疑応答
会議記録	テーマ:「子育て?親育て」...~職場の開拓者~ 講師:障害児(者)の将来を考える会 泉の会 畑中 圭子氏  <障害と分かったとき> 何で自分の子が...  <幼少期から現在まで> 生後10か月で歩き始めたが、発語が遅かった。 3歳のとき、スピーチクリニックへ通い始め、目から覚えさせるようにしました。(視覚的認識) 4歳になるころ、泉会に入会する。入会し、自分だけではないと、ホットできた。 小学校は普通級に入学。中学では個別級で、体力、生活実践力の基礎作りです。 高校は 市立の高等養護学校では職業訓練。 実習に行ったが、前期は不採用。後期の実習では採用となり、クリーニング工場にて就労開始。現在でも続けています。 クリーニング工場の職場スタッフからの理解があり、それが大きな支えになっている。 自宅で生活していた息子が、13年前より「グループホーム うらら舎」で生活をスタート。 入居前、「なぜ自分だけが家を出なければならぬ?」それについて、何度も説得。親も子も不安がたくさん...しかしやってみると、徐々に慣れグループホームでの安定した生活になってきた。親離れ・子離れのスタート。  <家族の思い> 息子と本音で話せないもどかしさを感じている。子どもの本音を親でも聞けないもどかしさ、寂しさもある。 本気で話し合ってみたい。それが私の夢。  <今後の生活への不安> 親の高齢化。親亡き後の生活はとても心配である。また、本人も年齢を重ねていき高齢化して生活の場所が変わることも考えられる。安定した生活を望んでいる。  <地域への期待> ・地域の見守り、温かく見守ってください ...普段はここにいることを知っていてほしい。何かあった時には気にかけてもらえるとうれしい。 (特に災害時) 支えられることも多いが、支える側になることもある。できる力が本人にもあると思っている。  <まとめ> ・感謝の気持ち...たくさんの人に支えてもらったこと、プラス面にも目を向けていく。 ・子育てのつもりが親育て...子どもたちに自分も育ててもらっている。

・不思議なパワー

<質問・感想・意見交換>

・地域の方へ向けて講演をされたとき、地域の方の反応はどのようなものでしたか？

☆講師：概ねの方は話を聞いたことがない方が多かったです。よく、ここまで話してくださいました。と言っていたこともあります。

以前別の質問では、バスに乗っていた時、車いすの方が乗ってきました。降車の際「おい、降りるぞ」と

運転手を呼びました。それについてはどう思いますか？という質問でした。

私は「プライドがあって素直に言えなかったのではないのでしょうか？障害があるのではないでなく、その方の表現

の問題。表現がうまくなかったと認めていただけたら。」答えました。

・講師：最後の不安は、息子をいつまで働かせるかということ。本人にとってはそこにいることが安定しているが、親が見切りをつけるのか？ということ。

それから兄弟児の育てかたや将来も心配。兄弟の結婚相手が理解してくれるかどうか。生まれてくる子どもに

障害を持つかどうか心配されることもある。周りにもさざなみのようなものがあるのかな・・・と思う。

・以前と現在では地域の理解をどのように感じられますか？

☆講師：“かわいそう”が出てきます。そうではなく、障がいを持つ子どもがいても同じだと伝えたいが、どうしても“かわいそう”が先立ってしまう。福祉サービスなど施策としては増えたが、障がい理解というところでは、根本は変わっていないと思います。

・うらら舎を作られた経過について教えてください。

☆講師：子どもの先々を心配している何人かのお母さんたちがグループホームを希望。むつみを借りて、土曜日にお泊り会を始めたのがきっかけです。

グループホームの物件を見つけて町会長に挨拶に行きましたが、その時子どもたちが歩くルートを書くように

言われたこともあります。子どもたちを見たらえれば、わかってもらえると信じていましたが・・・

若く働いているお母さんも増え、会の仕事もやらなくてはいけないのかと、揉めたこともあります。

色々ありました。今だから話せますが、生活の基本はどの時代も変わりません。できることをきっちり

しつけておけることが大事になります。それは本人にとってもメリットになります。

人に預けやすい子どもに育てておくことが将来的に本人にとっても得になりますから。

☆参加者：大企業ほど、実習・面接のときに家でお手伝いをしているかを必ずといっていいほど聞きます。

それは、「自分の仕事として定着するか(言われてからやるか、そうではないか)」「自分で通えるかどうか」を

みている。

近年増えているのは、プレッシャーに耐えられず、実習に入れぬお子さんが増えている。その時お母さんたちは「本人を持ち上げてくれればできる」「オブラートに包まないと話せない」と話されることが多い。